



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて

大いちょう

令和 7年12月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 8

048 (829) 2737

子どもたちの成長につなげる開校155周年記念事業の展開

校長 永山 誉

季節が巡るのは早いもので、いよいよ今日から「師走」。「師走」と聞いただけで、何か慌ただしい年末を感じるものです。このような時期だからこそ、子どもたちには、落ち着いて、これまでの活動を振り返りながら2学期のまとめを行い、次に向けての準備を行わせたいものです。

さて、11月は、本校の開校155周年記念式典及び記念音楽会、開校155周年記念事業の一つの浦和フィルハーモニー管弦楽団によります音楽鑑賞教室、そして高砂まつりなど、子どもたちにとって心に残る多くの活動が展開されました。5年に一度の周年行事は、子どもたちにとって、この高砂小学校での学びの一場面としましても、また高砂小学校への理解を深めるためにも、とても有意義で思い出深いものになったことでしょう。きっと、子どもたちが大人になったときに、この記念事業の一つひとつが、ふるさとを思い出す記憶の一場面になっているのではないでしょうか。改めまして、開校155周年記念事業の実施にあたりまして、開校155周年記念事業実行委員会の皆様をはじめ、関係の皆様、地域の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ところで、この周年行事に関しましては、子どもたちの成長につなげるため、子どもたち自身にも何ができるのか考えさせてきたところです。子どもたちの発案によります開校155周年記念事業のイベント企画については、1学期以来代表委員会等で検討し、今後高砂小学校が建て替えを迎えることから、この校舎への思いを込めるとともに、この校舎での思い出づくりの一環として、TV企画の「学校かくれんぼ」に子どもたち自身が応募してまいりました。しかし、なかなか願いが叶わず、今年度中に実施するためには、新たな企画を展開しないと間に合わないことから、新たに自分たち自身で展開する「学校かくれんぼ」(仮称)を行うこととしました。詳細はこれから詰めてまいりますが、地域の方々にもお手伝いいただきながら、地域の方々とともに準備を進めていきたいと子どもたちは考えています。子どもたちからお声がかかりましたら、どうぞご協力のほどお願い申し上げます。実施日は、令和8年2月28日(土)午前中を予定しています。当日は、全校登校日といたしますので、振替休業日として、3月2日(月)をお休みとします。予め御了承ください。詳しい内容が決まりましたら、別途お知らせいたします。

大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した童謡詩人である 金子みすゞ さんが残した詩があります。

「学校」 金子みすゞ

舟でくる子もありました、
峠を越す子もありました。

うしろは山で蟬の声、
まえはつつみで筆の風。

田圃を越えて海がみえ、
真帆も片帆もゆきました。

赤い瓦に、雪が消え、
青いお空に桃が咲き、

新入生がくるころは、
鳩も、かえろも啼きました。

黒いつつみを背におい、
あかい葎ももぎました。

赤い瓦の学校よ、
水にうつった、あの屋根よ、

水にうつった、影のよに、
いまはこころにあるばかり。

金子みすゞ詩集百選

発行所ミヤオビパブリッシングより

原文のまま

現在、浦和駅西口南高砂地区市街地再開発により、街は大きく様変わりし、いよいよ高砂小学校も全棟建替えに向けて動き出しました。この詩にありますように、街や建物は様変わりしても、またこの地から旅立っていこうとも、高砂小学校で過ごした日々は、きっと心の中にいつまでも残ることでしょう。開校155周年記念事業もそんな一つになってほしいものです。